



新宿区 いきもの ガイドブック



新宿区のみどりからみる 過去 現在 未来

過去の状況 (大正 10 年)

今から 80 年以上も昔の新宿区にはまだ田畑がありました。区の東側は市街地化ははじまっていますが、大きな公園が緑地を形成しています。いまは生息していませんが、過去の新宿にはコウノトリやキツネもいたとされています。

現在の状況 (平成 27 年)

平成に入ると、みどり色の部分はほとんどなくなってしまい、新宿御苑、戸山公園、新宿中央公園などにみどりが残っています。このような状況でも、たくましく生きているいきものたちもいます。

未来への緑地構想

まわりの地域とみどりや水辺のつながりを強くしていけば、小鳥やトンボなどの通りみちができて、新宿区のみもの多様性が高くなるのが期待されます。

妙正寺川、おとめ山公園、戸山公園、神田川、新宿中央公園、新宿御苑、外濠、ヤマトシジミ、ツチイナゴ、メジロ、アオドウガネ、ツツジ、ハハコグサ、カルガモ、トウキョウヒメハンミョウ、タチツボスミレ

発行：新宿区 みどり土木部 みどり公園課 2017 年 3 月 / 企画・製作：株式会社環境指標生物 デザイン：いきものデザイン研究所

いきものをさがしてみよう!

公園

- ぬかるんだ地面: ミミズや土壌(どじょう)動物など
- 上空: ツバメや猛禽(もうきん)類
- 低木の植えてみ: ウグイスやメジロ、蜜(みつ)を吸いにくる昆虫
- 水際の樹木: カワセミなど
- 池の中の石: 方々の甲羅干しや水際の休息場所
- 木のまわり: トカゲなど
- 林の中(木の上): シジュウカラやコゲラなどの小鳥
- 林の中(林床): キジバト、シロハラなどの鳥や小さな草花
- 木のてっぺん: ヒヨドリやモズなど
- 木のみき: 樹液(じゅえき)や樹皮(じゅひ)の下に虫がいる
- 石やブロックの下: ミミズやダンゴムシ、ハリマシジミなど
- 路上: スズメ、ギンゴケなど
- 建物の上: ととき猛禽類(もうきんるい)がとまっている
- 街路樹: スズメ、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラなど(果がみつかることもある)
- 川: カモ類、トンボなど
- 電線や電柱: ハンドリカラス、ムクドリなど

街なか

公園や街なかにもいきもの探しのポイントがいっぱい! 遠くのは双眼鏡で、小さいものは虫メガネでのぞいてみよう。肉眼で見えるものもあるよ。

いきものをさがす時の注意点

- 人の迷惑にならないようにさがそう
- いきものをおどろかさないうちにさがそう
- いきものすみかを壊さないようにしよう
- かんさつよく観察したら元あったようにもどしてあげよう
- 危ない場所やいきものに気をつけよう
- ゴミは必ず持ち帰ろう

がいらいせいぶつ 外来生物とは...何が問題?

外国から

- ・アライグマ
- ・ミンシビアカミミガメ
- ・アカボシゴマダラ
- ・アメリカザリガニ など...

国内の他の地域から

- ・ママガエル
- ・メダカ
- ・コイ など...

何が問題?

- 例
- ・もともといたいきものを食べたり
- ・生活の場をうばってしまう
- ・人間がかまれたり刺されたり
- ・被害にあう
- ・在来のいきものと交雑して雑種(ざっしゅ)ができてしまう

もともとその地域にいなかったいきもので、外国や日本の他のところからもちこまれたもの

すでに新宿区に生息する外来生物たち

だから... 外来生物予防3原則

おやみに日本に
いれない
飼っている外来生物を野外に
捨てない
すでにいる外来生物を他地域に
拡げない

新宿

いきものごよみ



使い方

・一年を時計に見立て、新宿区でみられる四季折々のいきものをこよみ形式で紹介するポスターです。
 ・中心から外に向けての配置は、さがす目安として、いきものいる場所を地上～目線～樹上や上空におおまかに分けています。
 ・ツバメの飛来やセミの声など、季節のうつりかわりを感じるいきものには、記録として月日が記入できるようになっています。

・新宿区でみられるいきものの中から、以下の視点で指標となる種を選定しました。

- 減っている種
- 分布が広がっている種
- 外からやってきた種
- 身近にみられる種

※表面のいきものを探すポイントも参考にしてみてください